

妙観会の 坂井真直はくせ者である。うっかり  
引っかけたら大変である。宗門を批判した時已  
必不出方を待たず、それで何か事を起こしていか  
る。また、必ずまわりから情報に  
とるというやり方をす

また 淳師のことにするが、小梅法論の時に  
淳師は、また僧侶に對し、お前達が行って  
どうしたか、勝てないだろう、と言、こゝろに  
學問の子弟が好む。と何回も言われた

淳師は 彼は先生に對して己自解仙乘の  
法華經の行者体得の人であると言われ  
ていた。

私が、今の抱下かかをり扱った存と思つた  
のは 26か条の解釈を 抱下の批駁する  
方向に変えてほつたことだ。「時の世主たり  
といふは 仙法に相違して己義を構えは  
之を用ふ可からざり事」を 抱下かかを用いて  
ほつた。としてほつた、それでは次の  
一巻は同じことあり、いふは、いふは、いふは、  
本はゴツクリ、